

令和8年度 佐賀市立三瀬中学校 教育課程

1 学校教育目標

ふるさとを愛し、自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成

2 本年度の重点目標

○児童・生徒数減少を踏まえた小中一貫教育の推進
(実情を踏まえ、隣接する地の利を生かした小中一貫教育)

3 重点取組内容

(1)学習指導の充実(学力の育成)

○主体性を育む土台となる基礎学力・学習習慣の獲得
・9年間を見通した学習規律を確立し、朝の短時間学習(スキルタイム)や家庭学習の習慣化を小中合同の取組として推進する。
(個に配慮した細やかな授業・eライブラリ、スキルタイム、「三瀬校スタンダード」、家庭学習がんばり週間等)
○協働的な学びを通じたメタ認知力の醸成
・他者との対話で学びを広げたり、深めたりする学習活動の充実
(ペアや少人数での学び、学習の振り返り)
○少人数を生かした「個別最適な学び」の推進
・ICT端末を活用し、生徒一人一人の習熟度に合わせた個別学習支援や、少人数ならではの対話型授業を展開する。

(2)生徒指導の充実(心力の育成)

○QUアンケートとSCの専門性を生かした多角的な生徒理解。
・月1回の生活アンケート、年間2回のWebQU、教育相談を活用し、生徒の実態を常に把握する。
・SCとの教育相談、教職員向けのコンサルテーションを実施する。
○人権・同和教育を中心とした学習活動で児童の心を育む。
・人権集会を年9回実施し、生徒の心を耕す。
○「ふるさと三瀬」を誇りに思う体験活動の充実。
・地域の行事や奉仕活動への参加を通じ、郷土愛を深めるとともに、地域の一員としての役割を果たすことで自己有用感を高める。
○小中の情報共有による家庭環境の把握、児童生徒理解の推進。
・小中で家庭環境及び兄弟、姉妹の実態を把握し、情報を共有し、細やかな児童・生徒理解に生かす。

(3)特別支援教育の充実

○「個別の指導計画」の小中9年間継続運用
・小学部からの支援内容や配慮事項を確実に中学部へ引き継ぎ、切れ目のない一貫した支援体制を構築する。
○ユニバーサルデザイン(UD)の視点を取り入れた授業づくり
・視覚的な提示や構造化など、すべての生徒にとってわかりやすい授業を小中共通の視点で行い、学習の定着を図る。
○通級指導教室や専門機関との連携強化
・小中合同での事例検討会を実施し、専門的な知見を共有。少人数だからこそできる、状況に応じた柔軟な指導体制を整える。

(4)小中一貫教育の推進

○隣接型小中一貫教育の強みを生かした小中一貫教育の推進
・9年間で育む児童生徒像を共有し、校内研究を行う。
・小学校への乗り入れ授業、合同行事(体育大会、文化発表会、芋ほり、三瀬っ子タイム)を改善しながら継続する。
・QUアンケートの結果やSCの知見を小中間でシームレスに共有。全教職員が9年間のスパンで生徒一人一人の特性を理解し、きめ細やかな「顔の見える教育」を徹底する。